令和８年度第１回岡山県環境審議会政策部会　議事概要

（開催要領）

１ 開催日時：令和８年１０月１日（木）　１５：００～１６：００

２ 場　　所：ピュアリティまきび　２階「白鳥」

３ 出 席 者：

○委員（五十音順、敬称略）

赤井藤子、阿部宏史、大山知康、嘉数彰彦、木村幸敬、小松満、嶋一徹、末石芳巳、杉山裕子、藤木茂彦、藤原園子、吉田光宏／計１２名

○事務局（県）

環境文化部次長、環境企画課長、脱炭素社会推進課長、環境管理課長、循環型社会推進課長、自然環境課長、事務局職員（計９名）

議題	１　部会長の選出及び副部会長の指名について ２　岡山県環境基本計画（エコビジョン 2040）の令和７（2025）年度進捗状況について
会議資料	別添資料のとおり
議事概要	【議題１】 部会長に阿部宏史委員が選出され、阿部部会長から、副部会長に小松委員が指名された。 【議題２】 （環境企画課長、脱炭素社会推進課長、循環型社会推進課長、環境管理課長及び自然環境課長が資料に基づき説明）
-委員意見- 委員	【議題２】 重点プログラム「工場・事業場対策の排ガス基準適合率」について、努力目標 100％に対して、令和７年度実績値は 100％であるが、達成レベルは２なのか。また、何件調査した結果なのか。
環境管理課長	大気関係の施設を対象に行政検査を 27 件行ったところ、全て排ガス基準に適合していた。計画策定時の現況値も 100％であり、現状維持を目的とした指標となっており、評価基準に基づき、目標値と実績値が同じとして、達成レベルは２としている。
環境企画課長	100％を達成できているにもかかわらず、達成レベルが２になるといっ

	た点はたしかに分かりにくいため、次回の計画改訂時には評価方法を改めて検討してまいりたい。
委員	達成レベルの評価方法の検討等については任せるが、今後は、評価結果だけではなく、どのような取組を行っているのかについても説明してもらいたい。
委員	計画策定時に設定した努力目標があるが、それを基に令和７年度の目標値がいくらで、その目標値に対する達成度がどのくらいであったかという内容が示されていれば分かりやすいと思うが、どうか。
環境企画課長	御意見については持ち帰り、次年度に反映できるか検討してまいりたい。
委員	４年間で積み上げていくような目標が設定されている項目と最終的な目標だけが示されている項目が混在しており、分かりにくくなっていると考えられるが、どうか。
環境企画課長	次回の計画改定時には、もう少し分かりやすく整理できないかを検討してまいりたい。
委員	重点プログラム「児島湖再生の推進」について、環境用水の取水量が増えると、なぜ児島湖の再生につながるのか教えてほしい。
環境管理課長	児島湖は平均水深が約１ｍ と浅い湖であり、プランクトンが発生しやすく、滞留もしやすいため、従前から高梁川や旭川から浄化用水を導入して湖水の流動性を高め、水質改善を図っている。しかし、水質が環境基準の達成に至っていないため、新たに水利権を取得し、旭川からの取水量を増やすことで、希釈効果や湖水の流動性を高め、児島湖の浄化に取り組んでいる。
委員	取水量の調整はどのように行っているのか。
環境管理課長	旭川合同堰から取水しているが、その上流にある観測地点の流量が一定以上となった場合に取水できることとなっており、水位の高さと流量の相関式を基に、合同堰の水位の管理によって、取水量を調整している。
委員	重点プログラム「地域で進める再生可能エネルギーの導入」について、脱炭素地域づくりに取り組む地域の数が増えており、その理由として、

	支援事業の見直しが挙げられているが、具体的にどのような見直しを行ったのか。
脱炭素社会推進課長	これまでの太陽光発電設備を導入する事業に加え、再生可能エネルギー由来の電気を利用する電気自動車を活用した事業も支援対象とした。
委員	災害が頻発化しており、気候変動への対策は重要である。気候変動への適応について、基本目標Ⅰの中に気候変動への適応に関する項目があるが、記載されている取組内容に具体性が感じられない。適応策について、具体的な取組を教えてほしい。
脱炭素社会推進課長	気候変動への適応については、自然災害に対する減災対策をはじめ、農林水産分野では高温耐性品種の育成、健康面では熱中症対策など、各分野で様々な取組を行っている。
委員	緩和策としては太陽光発電の推進を行っていると思うが、最近、農地を活用したソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）に取り組まれているところもあるが、県内での積極的な取組事例はあるか。
脱炭素社会推進課長	ソーラーシェアリングについては、主には農林水産部が担当であるが、事業化には農地の一時転用の許可が必要である。新聞報道によれば、県内では令和５年度末で 134 件許可されているということであり、県内でも徐々に取組が広がっているものと考えられる。
委員	県としても推進しているのか。
脱炭素社会推進課長	農林水産部が担当であるため、詳細は把握できていないが、再生可能エネルギーの観点では良い取組であるものの、日光が遮断されるなど作物への影響もあるため、そのような観点も踏まえながら検討しているものと思われる。
委員	先ほども話にあがったが、気候変動の適応に関する内容が薄いと感じており、特に岡山県は熱中症による死亡者数が全国ワースト１位になったというデータを見たことがある。また、熱中症による救急搬送者について、住宅での発症が最も多かったということが新聞でも報道されていた。住宅の断熱化に対して、岡山県として何か取り組んでいるのか。
脱炭素社会推進課長	窓断熱リフォームについて、国が先進的窓リノベ事業として補助を行っているが、県でも、今年度、この事業の対象者に国補助金交付額の３

	分の１、最大で 120,000 ポイントのキャッシュレスポイントを還元するといったキャンペーンを行っている。
環境企画課長	その他の熱中症対策としては、危険な暑さから避難できる場所として市町村がクーリングシェルターを指定するが、岡山県庁舎などが指定されている。また、岡山県庁舎と県立美術館に誰でも給水可能なウォータースタンドを設置している。
委員	全体的に県の取組が県民には届いていないと感じる。本当に必要な方に取組が伝わるよう周知に努めてもらいたい。
環境企画課長	引き続き県民への普及啓発に努めていく。
委員	独立した課でそれぞれの目標を達成すればよいという考えではなく、進捗状況の結果を見て、達成レベル３の項目は取組の力を少し抜き、達成レベル１の項目はさらに力を注ぐといった調整をしてもよいのではないか。現状は、達成レベルの結果の羅列だけになっていると考えられる。
環境企画課長	達成レベル１の項目については、どのような課題があり、今後どのような取組を行っていくのかについて担当課に確認しており、引き続き達成レベル１が解消されるよう取り組んでまいりたい。
委員	政策部会として、数値目標の達成状況のチェックのみを行うのではなく、政策について横断的に議論することが重要だと思うため、今後の運用について事務局も検討してもらいたい。